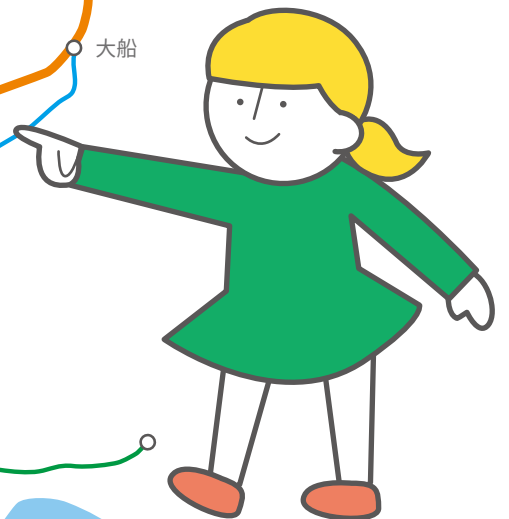


どこで？

未来に向けた 駅のあるまちづくり はじめます



村岡新駅
周辺地区で



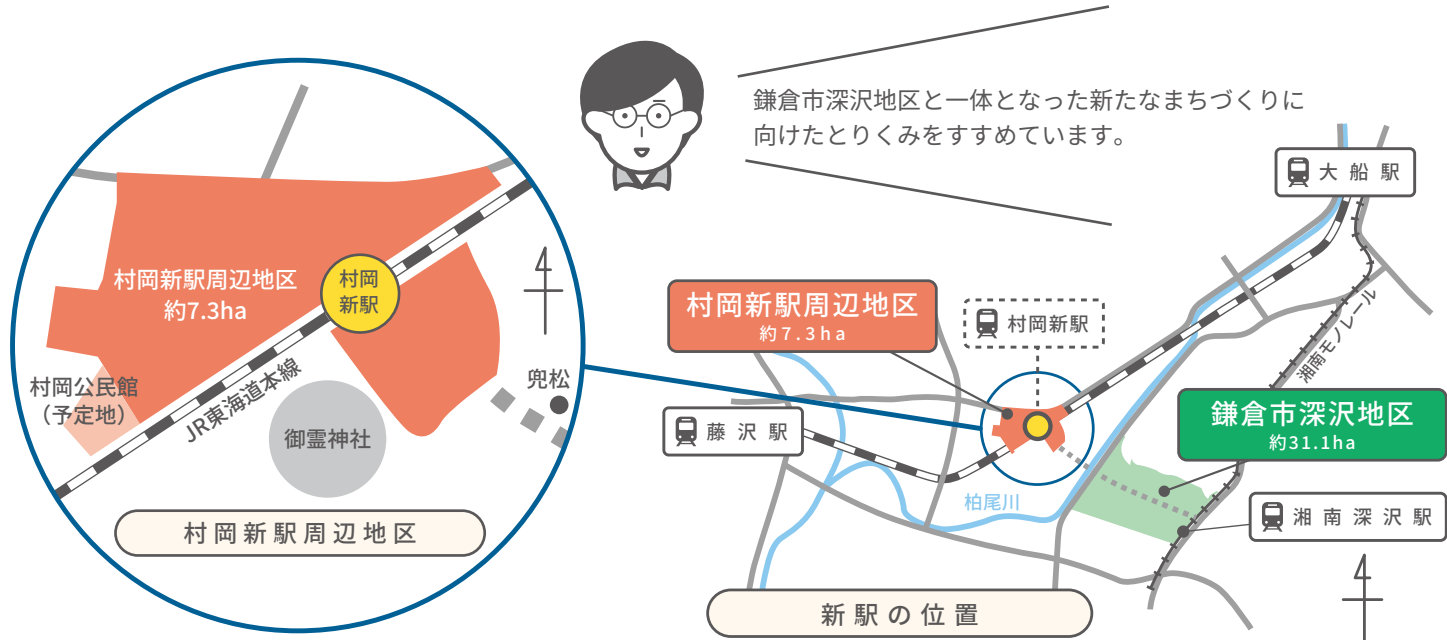
藤沢市



どこに新しい駅とまちができるの？

藤沢駅と大船駅の間に、JR東海道本線の新しい駅が誕生する予定です。新しい駅の誕生にあわせて、新しいまちづくりをします。

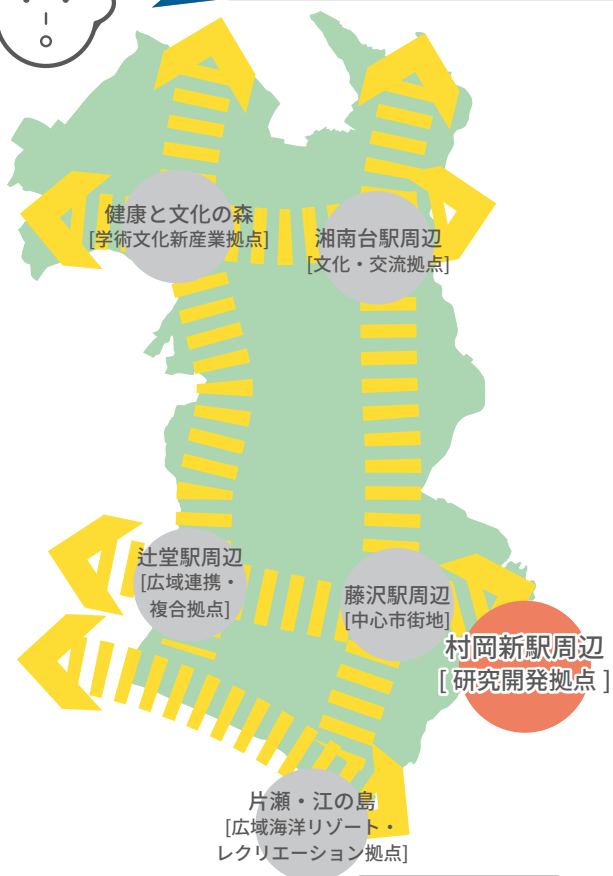
順調に進めば、2032年(令和14年)ごろ新駅開業予定です。約10年後の開業にあわせて、村岡新駅を核としたまちづくりをすすめていきます。



なぜ村岡地区に新しい駅とまちをつくるの？

村岡新駅周辺は、将来の藤沢市を支える都市拠点*の1つに位置付けています。

「藤沢市都市マスタープラン」で、研究開発拠点の形成と地域サービスの充実を位置付けています。



これまでも藤沢市は駅を拠点にまちづくりをしてきました。



村岡新駅周辺に順番がきたのね！



*都市拠点は、「藤沢市都市マスタープラン」に位置付けています。



どんなまちをめざすの？

少子超高齢社会、気候変動、アフターコロナなど、私たちの暮らしや意識が大きく変わる中
村岡の文化・緑を活かし、安心・安全な環境の中で、新しい暮らし方や働き方を支えていけるまちをめざします。



創造につながるワクワクやひらめきを感じられる研究開発拠点を、皆さんと育てていきます。



世界へ発信

研究者や市民、訪れる人等が、新しい体験に触れたり、ゆとりのある魅力的な空間で過ごしたり、様々な交流を感じられる新たなまちを形成します。



新たな時代の研究者がこのまちから出てくるかも!!



市全体への波及

村岡新駅周辺地区がめざす将来地区像



まちづくりで気になることを教えて！

大きな商業施設ができるの？

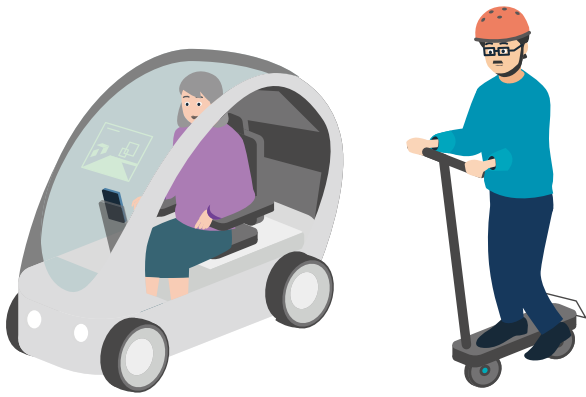
藤沢駅や辻堂駅周辺のような大規模商業施設があるまちではなく、地域住民、研究施設やオフィスで働く人、訪れる人が集い、一日を過ごしたくなるまちをめざします。

例えば...

働く	研究施設・オフィスなど
暮らす	日用品をあつかうスーパー・診療所などの日々の暮らしに必要な施設
交流・体験・触発	オープンカフェや、自然、芸術、健康づくりなどを介した憩い、交流、にぎわいの場

駅ができるだけで交通が便利になるの？

村岡新駅を中心に、快適で便利に移動できる新しいモビリティ（自動運転等）や交通ネットワークにより、周辺にお住まいの方々が、自家用車がなくても、いつでも安心して行きたい場所に行けるような仕組みづくりをすすめます。



駅が増え乗車時間が伸びて不便では？

村岡新駅は市内の交通利便性を向上する一環のとりくみとしてすすめています。

また、運行計画については、JR 東日本に村岡新駅より西側の利用者にとって、できるだけストレスとまらないような配慮をお願いしています。

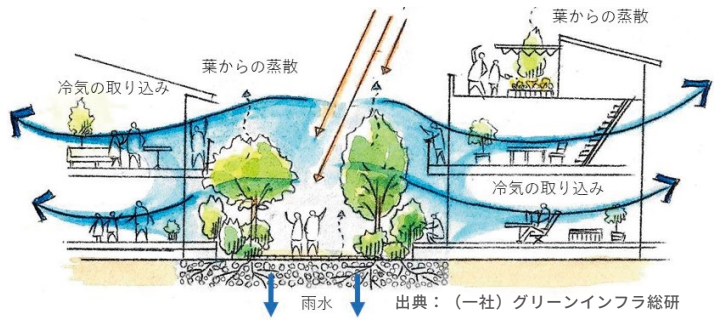


超高齢社会が進む中、新駅設置による交通体系の充実したまちづくりは、人々の暮らしを支える重要なとりくみです。

水災害が心配だけど大丈夫？

公園や広場の地下などに雨水を貯める場所（調整池）を作ったり、自然のもつ多様な機能（保水・浸透機能など）を生かすグリーンインフラの活用により、今より安全なまちをめざします。

また、万が一の場合でも、安心して避難できたり、まちの活動を継続できるような仕組みをソフト、ハードの両面からとりくみます。



緑豊かな村岡はなくなるの？

村岡で育んだ緑や文化をつむぎながら、公共空間や民有地を積極的に緑化し、緑に彩られたまちづくりをすすめます。



兜松



鎌倉古道

村岡新駅周辺地区まちづくり方針

「村岡新駅周辺地区まちづくり方針」では、まちづくりを進める際の交通や緑・文化、安心・安全の考え方を示しています。
⇒市のホームページでご覧いただけます。





藤沢市にどのような効果があるの？

藤沢市が将来にわたり市民が楽しく豊かに暮らし続けられる都市になることを期待しています。

村岡新駅周辺では

周辺の住宅地も含めて、暮らしやすくなります。

交通の便が良くなったり、生活に必要な施設やにぎわいを創り出すことで、まち全体が暮らしやすく、働きやすくなることを期待しています。

研究施設やオフィスができ、新しい経済活動が生まれます。

研究開発拠点が順調にできた場合の経済効果として1年間に約540億円、雇用として約4,300人が期待できるという可能性を試算しました。

試算結果に近づけるようまちづくりにとりくみます。

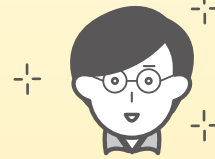


藤沢駅周辺では

藤沢駅周辺の交通環境が良くなり、村岡新駅周辺とのつながりで新たなにぎわいが生まれます。

村岡新駅ができることで藤沢駅や藤沢駅周辺の道路の混雑が緩和されたり、バス交通のサービスが改善されたり、これまで混雑が嫌で藤沢駅周辺に買い物に行かなかった人や、村岡新駅周辺の新たな就業者・居住者がお客様になったり...を期待しています。

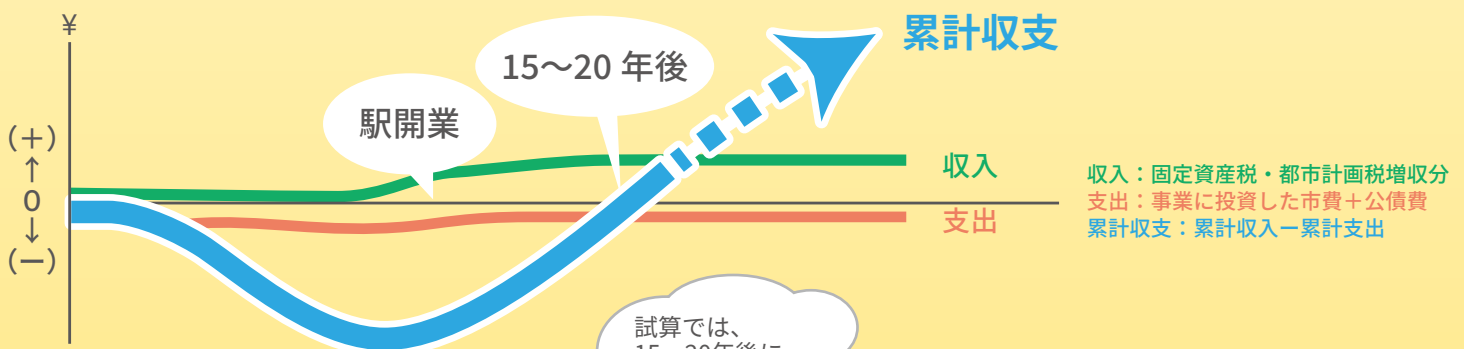
他の都市拠点にも新たな活力を与えるきっかけに！



市全体では

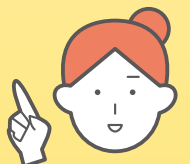
継続的な財源確保が期待できることで、教育、福祉等の市民サービスの充実につながります。

市全体の活力増・税収増による藤沢市の安定的な行政運営により、持続可能な都市をめざします。また、村岡新駅周辺で先行的に取り入れた技術などを市全体に広げ、子育て世代にとっても魅力的な都市になることを期待しています。



試算では、15~20年後に累計収支がプラスに転じる予定です。

次の時代を見据えた投資ね！



村岡新駅について

2021年(令和3年)2月、神奈川県、鎌倉市、藤沢市及びJR東日本で『東海道本線大船・藤沢間村岡新駅(仮称)設置に関する覚書』を締結し、新駅整備を進めることとなりました。新駅の乗降客数は、約65,800人/日と推計しています。村岡新駅の事業費は概算で約150億円※を見込んでいます。

新駅の完成イメージ図(南側)



現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。

覚書の主な内容

東海道本線村岡新駅(仮称)設置に関する事業の基本的事項を定め、3県市及びJR東日本が相互に協力して円滑に事業を実施することを目的とする。

新駅整備事業に要する費用負担は、以下によることを基本とし、その詳細は別途3県市及びJR東日本で協議して定める。

神奈川県	藤沢市	鎌倉市	JR東日本
30%	27.5%	27.5%	15%

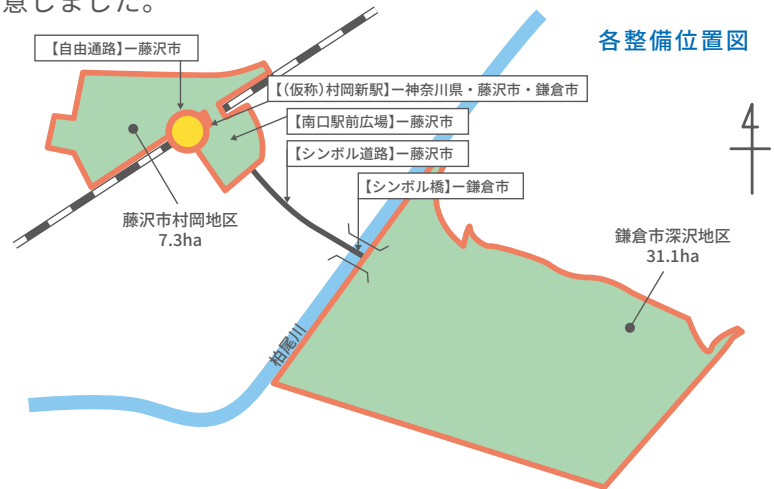
※自由通路整備事業費を除く。

鎌倉市深沢地区との一体的なまちづくり

神奈川県では、「かながわ都市マスタープラン」において、村岡・深沢地区をヘルスケア・ニューフロンティアなど最先端の新たな地域の拠点として位置付けており、東海道本線藤沢駅～大船駅間の新駅設置に向けた取組と新たな都市拠点の形成を進め、次の世代に引き継げる持続可能な魅力あふれる県土・都市づくりの実現に向けて取り組んでいます。

2018年(平成30年)12月、神奈川県、鎌倉市、藤沢市で『藤沢市村岡地区・鎌倉市深沢地区のまちづくりと村岡新駅(仮称)設置に関する合意書』を締結し、藤沢市村岡地区と鎌倉市深沢地区の土地区画整理事業を一体施行で取り組むこと等に合意しました。

2021年(令和3年)3月には、神奈川県、鎌倉市、藤沢市及びUR都市機構で、『村岡・深沢地区のまちづくりに関する基本協定』を締結してまちづくりに関する役割分担等を定めております。

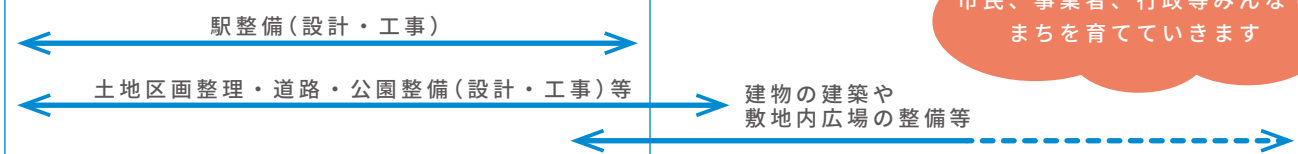


まちづくりの進め方

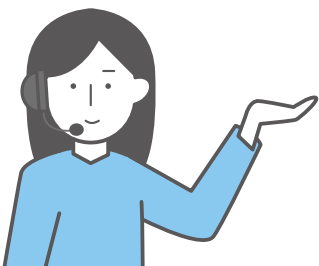
道路や公園等のまちの基盤や、村岡新駅を整備する工事の後に、建物などの建築や植樹等の緑化工事をして、新しいまちが生まれます。

現在

村岡新駅開業
(2032年ごろ)



便利なまち、魅力的なまちに向けて、市民、事業者、行政等みんなでまちを育てていきます



お問い合わせ

藤沢市役所 都市整備部 都市整備課 村岡地区整備担当

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1

TEL 0466-50-3543(直通)

E-mail fj-tosei@city.fujisawa.lg.jp